

港区でたくさんの生きものと出会うために

虫が食べる植物を植えよう!

オス
ツマグロヒヨウモン
メス

ナミアゲハはミカンの仲間の葉っぱを食べるよ

ツマグロヒヨウモンはスマレの仲間の葉っぱを食べるよ

ナミアゲハ

虫の好きな環境をつくろう!

刈った草を積んでおこう

鉢を使って小さな水辺をつくろう

水辺をつくろう

港区の生きものと外来種

港区には、2,000種類以上の生きものがあります。「外来種」というほかの地域から運ばれてきた生きものもいます。そのなかには、数をたくさん増やして、もともと日本にすんでいた生きものの生息を脅かすものなどもあります。ペットは最後まで責任をもって世話をしましょう。また、見つけた生きものをむやみに持ち帰らないようにしましょう。

区内に生息する外来種



肉食のブルーギル (特定外来生物)



池に多いアカミミガメ (要注意外来生物)



池に多いアメリカザリガニ (要注意外来生物)



在来種を追いやるセイヨウタンポポ (要注意外来生物)

港区の生きものたち

—港区の生物多様性—



私たちの生活は、地域の自然や生きものにつながっています。



まずは、生きものに関心を持ち、身近な自然について考えてみよう。



刊行物発行番号 26233-5611

編集・発行 港区 環境リサイクル支援部 環境課 緑化推進担当

〒105-8511 港区芝公園1丁目5番25号 電話03-3578-2111(代表)

発行日 平成27年(2015年)3月発行



港区には、歴史ある大きな緑地が多く残っており、川や海などの水辺もあります。それぞれの環境には、その環境に合った生きものが暮らし、私たちと共に生活しています。

港区にある主な緑地と、区で見つかる生きものを紹介します。

・クサガメ

公園や大きな屋敷、神社の池などにすんでいます。日向ぼっこが大好きで、水辺近くの土の中に穴を掘って卵を産みます。



クサガメ

・カワセミ

背中が緑色、お腹がオレンジ色で、くちばしの大きい美しい鳥です。500系新幹線の先頭部分は、カワセミのくちばしに習ってつくられ、騒音を出さずに高速走行ができるようになりました。



カワセミ

・カントウタンポポ

春にだけ花を咲かせる日本古来のタンポポです。集団で生育していないと増えていきません。



カントウタンポポ

・タチツボスミレ

明るく開けた林の中に生えます。タネはアリが運ぶので、近くにはアリの巣があるかもしれません。観察してみましょう。



タチツボスミレ

・ツマグロヒョウモン

近年、南の地方から来て港区でも見られるようになりました。幼虫は公園や庭先のパンジーの葉を食べて育っているようです。



ツマグロヒョウモン

・オオカマキリ

草地にいて昆虫を捕らえて食べます。餌の昆虫が豊富な環境で、卵が安全に冬越しできる場所でないとうまくいきません。



オオカマキリ

・アオモンイトトンボ

水草のある池で、水面や水辺の草に止まっているのが見られます。近年、南の地方から来て港区でも見られるようになったイトトンボです。



アオモンイトトンボ

・ウナギ

春、稚魚が海から川に遡上し、川で成長します。日中は物陰に隠れていて、夜に活動し、昆虫やエビ、小魚などを食べます。



ウナギ

生物多様性とは

地球上のあらゆる生きものが、お互いに関わりあいながら生きていることを生物多様性といいます。

私たちも他のたくさんの生きものとともに、食べ物や水など、地球上のさまざまな自然や生きものが作り出す恵みを受けて生きています。

・ユリカモメ

秋の終わりごろから早春に見られる冬の渡り鳥です。江戸時代には「ミヤコドリ」と呼ばれていた「東京都の鳥」です。



ユリカモメ

・ボラ

陸地に近い海から川の河口付近にすむ魚で、区内の運河で飛び回る姿がよく見られます。卵は「からすみ」として食用にされます。



ボラ

